

地域番号	017	協議会名	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会
------	-----	------	---------------------------

解説文一覧

NO.	スポット名（タイトル）	中国語文字数	想定媒体
017-001	宗像大社の概要	845	WEB
017-002	辺津宮	315	WEB
017-003	海の道むなかた館	380	WEB
017-004	宗像三女神	460	WEB
017-005	辺津宮の歩き方	585	WEB
017-006	高宮祭場	225	WEB
017-007	第二宮と第三宮	415	WEB
017-008	神宝館	435	WEB
017-009	お祭り	845	WEB
017-010	大島	495	WEB
017-011	大島交流館	285	WEB
017-012	中津宮	490	WEB
017-013	沖津宮遙拝所	315	WEB
017-014	御嶽山展望台と御嶽神社	225	WEB
017-015	宗像大社沖津宮（入門）	590	WEB
017-016	日本とアジア間の貿易交流	470	WEB
017-017	世界遺産への登録	625	WEB
017-018	沖ノ島の禁忌	235	WEB
017-019	沖ノ島の神道の歴史	415	WEB
017-020	島で発見された祭具	435	WEB
017-021	銅鏡	375	WEB
017-022	馬具	240	WEB
017-023	鉄艇	230	WEB
017-024	金製指輪	170	WEB
017-025	金銅製龍頭	205	WEB
017-026	イランからのカットガラス	235	WEB
017-027	金銅製高機	190	WEB
017-028	金銅製雛形五弦琴	185	WEB
017-029	唐三彩と奈良三彩	170	WEB
017-030	古墳	260	WEB
017-031	新原・奴山古墳群	245	WEB
017-032	新原・奴山古墳群と海	255	WEB
017-033	宗像氏	465	WEB
017-034	宗像大社のお守り	300	WEB
017-035	辺津宮の歴史	315	WEB
017-036	大島の歩き方	675	WEB

017-037	沖ノ島の祭祀	415	WEB
017-038	沖ノ島の歴史	235	WEB
017-039	沖ノ島の奉獻品と神宝	365	WEB
017-040	沖ノ島の原生林	220	WEB
017-041	沖ノ島の地形	190	WEB
017-042	滑石製形代	135	WEB
017-043	古墳から見つかる品々	120	WEB

【タイトル】 宗像大社の概要

【想定媒体】 WEB

<繁体字>

宗像大社簡介

宗像大社は日本神話中最古老の神社之一，位於九州本島北部海岸，擁有 1500 多年悠久歷史，在日本與亞洲其他國家之間的貿易和外交中發揮了重要作用。透過參訪宗像古老の神社與島嶼，可以了解日本歷史，以及早期貿易背景下當地崇拜儀式與苦修的發展過程。

供奉女神姐妹的三座神社

宗像大社主要由 3 座本殿(正殿) 組成：九州本島の邊津宮、大島の中津宮與沖之島の沖津宮，分別供奉著日本備受崇敬の太陽女神「天照大神」の三位女兒。古代渡海至中國或朝鮮半島の旅人出發前都會到此祈禱，平安歸來後亦要前來還願表達謝意。

位於海岸上の邊津宮交通最便利，從福岡市搭乘大眾運輸約 1 小時可以抵達。邊津宮本殿建於 1578 年，供奉天照大神の幼女「市杵島姬神」。相傳，本殿後方山上の高宮祭場是三位女神の下凡地點。本殿後方另有兩座末社(附屬神社)，即第二宮和第三宮，分別供奉大島與沖之島上の兩位女神，參拜者無須離開本島就能參拜三位神明。

島上神社

位於大島上の中津宮供奉著天照大神の次女「湍津姬神」。中津宮是當地水手與漁民祈求海上平安和漁獲豐收の信仰中心。

沖之島の沖津宮供奉天照大神の長女「田心神姬」。整個沖之島被認為是神聖之島，所以不對大眾開放，僅限宗像大社の神職人員上島參拜。神職人員登島前，需先在海中沐浴淨身，完成「禊祓」(禊，音同「戲」) 才可上岸參拜。

UNESCO 世界文化遺產

在沖之島上發現の祭祀器具可追溯至 4 世紀，遠遠早於日本第一本史書《古事記》(712 年)。由於禁止非神職人員登島，沖之島上の文化遺產保存得相當完好，為當地宗教儀式留下了寶貴紀錄，因而被聯合國教科文化組織(UNESCO) 列為世界文化遺產。島上發現の祭祀器具與文物多達 8 萬件，全部被指定為國寶，其中大部分都在邊津宮内の神寶館展出。

2017 年，邊津宮、中津宮與沖津宮三座神社，連同曾經統治該地區的宗像家墓葬群合稱為「神宿る島」宗像・沖ノ島及相關遺産群，被列入聯合國教科文化組織の世界文化遺產名錄。這片遺産群是對本土信仰文化形成與傳承過程の真實記錄，在世界上絕無僅有。

<日本語仮訳>

宗像大社の概要

宗像大社は日本神話に登場する日本最古の神社の一つです。九州北岸にある宗像大社は1,500年以上遡る豊かな歴史を有し、日本とアジアの他の地域との間の貿易と外交に大きな役割を果たしました。宗像の古代の神社や島々を巡り、日本の歴史や初期の貿易を背景として、儀式的な信仰や厳しい修行がどのように発展したかを知ることができます。

三姉妹の女神のための三つの神社

宗像大社は、本土にある辺津宮、そして二つの島の神社、すなわち大島の中津宮、そして沖ノ島の沖津宮の3つの本殿からなります。日本で最も崇敬されている神である太陽の女神・天照大神の娘の三女神が信仰の中心となっています。古代には、中国や朝鮮半島に航海に出る前に、旅人はここに祀られている神々に祈り、安全戻ったときには感謝をささげました。

最もアクセスしやすい神社は海岸にある辺津宮で、福岡市から公共交通機関で約1時間です。1578年に建立された本殿は、天照大神の三女・市杵島姫神を祀っています。本殿の裏山の高宮祭場は、三神が地上に降臨したとされている場所を示しています。本殿の背後にある2つの末社、第二宮・第三宮は、大島と沖ノ島に祀られている他の二神を祀っています。これにより、本土を離れずに三神すべてを参拝することができます。

島の神社

大島は天照大神の次女・湍津姫神を祀る中津宮のある島です。地元の船員や漁師らがここで海上での安全と豊漁を祈ります。

沖ノ島にある沖津宮には、天照大神の長女・田心姫神が祀られています。島全体が神聖視されているため、一般公開されていません。訪れることができるのは宗像大社の神職だけです。神職は島に足を踏み入れる前に、「禊」として知られる儀式において、海で沐浴をして身を清めなければなりません。

ユネスコ世界遺産

沖ノ島では、日本最古の歴史書『古事記』（712年）より以前の4世紀にまで遡る祭具が発見されています。島への訪問者を禁止する厳格な禁忌のおかげで、沖ノ島の遺産は非常によく保存され、そこで行われた儀式の貴重な記録を提供することが出来たことが、島にユネスコの世界遺産登録をもたらしました。沖ノ島で見つかった8万点の国宝の祭具や宝物の多くは、辺津宮境内にある神宝館に展示されています。

ご祭神を祀る三社と、かつてこの地域を治めていた宗像氏の墳墓群が、2017年に「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群としてユネスコの世界遺産リストに加えられました。この遺産群は、こうした信仰の文化的伝統の形成と継承の過程を物語る世界でも例のない遺産群です。

【タイトル】 辺津宮

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**邊津宮**

通常、宗像大社就是指邊津宮。這座神社位於九州本島，自福岡市乘坐大眾運輸約 1 小時即可抵達。組成宗像大社之三座神社中，邊津宮規模最大、交通最便利，神社內的神寶館收藏的文物最早可追溯至 4 世紀。邊津宮的本殿（正殿）和拜殿都被指定為國家重要文化財產。

如今的邊津宮為宗像家建造，這個家族曾經統治九州北海岸部分地區。本殿建造於 12 世紀前，但當地宗教活動的歷史遠遠早於該時期。最早期的祭祀地點可能位於本殿後方森林中的高宮祭場。本殿內供奉著宗像三女神之一「市杵島姬神」，殿後還有兩座末社（附屬神社）供奉另兩位女神。

神寶館位於本殿左側，館內收藏了沖之島出土的 8 萬餘件國寶文物，包括黃金首飾、陶瓷、玻璃製品，以及各式各樣作為祭神供品的珍寶。

<日本語仮訳>**辺津宮**

一般的には宗像大社とも呼ばれる辺津宮は、九州本島にあり福岡市から公共交通機関で約 1 時間です。宗像大社を構成する 3 つの神社の中で、最大で最もアクセスしやすい場所にあり、4 世紀まで遡る品々を所蔵する神宝館が敷地内にあります。本殿と拝殿は、国の重要文化財に指定されています。

現在の社殿は、かつて九州北岸の一部を治めていた宗像氏により建てられました。本殿の建物は 12 世紀以前に建てられましたが、ここでの信仰の歴史ははるかに前まで遡ります。初期の信仰は、恐らく本殿裏の森の中にある高宮祭場という古代の祭場に端を発しています。本殿は宗像三女神の一柱・市杵島姫神を祀っています。他の二柱は、本殿の背後にある 2 つのもう少し小さい末社に祀られています。

神宝館は本殿の左側の境内にあります。神宝館は沖ノ島で発掘された 8 万点以上の国宝の品々を所蔵しています。金の宝飾品や陶磁器やガラス製品など儀式の奉獻品として使用された貴重な品々が展示されています。

【タイトル】 海の道むなかた館

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**海之道宗像館**

海之道宗像館位於邊津宮對面，館內主要介紹宗像大社の歴史及其作為世界文化遺產的現狀。儘管沖之島不對外開放，但館內多種語言的 3D 電影和環形大螢幕形象展現了島上的虛擬實境，幫助遊客深度探索沖之島、加深對其宗教作用的理解。展示說明有日文、英文和中文等多種語言版本，向遊客簡明易懂地介紹組成宗像大社の 3 座神社，以及沖之島の宗教儀式概要。

此外，館內還介紹了宗像市の歴史與連接日本和亞洲大陸的航線，並展示了宗像的出土文物與當地古墳。館內定期舉辦適合幼童的活動，比如遊客在手作教室能嘗試製作「勾玉」，這是一種沖之島上用於供奉神明的逗號狀珠子。入口大廳後面有一家咖啡廳，除了提供小吃與飲料外，還出售伴手禮以及與宗像大社相關的歷史書籍。海之道宗像館亦設有圖書館，內藏宗像歴史、文化與當地風景等書籍，供公眾閱覽。這裡也提供單車出租服務，儲物櫃則可以免費使用。

<日本語仮訳>**海の道むなかた館**

辺津宮の向かいにある海の道むなかた館では、宗像大社の歴史と世界遺産としての現状を展示しています。沖ノ島は一般の立ち入りが禁止されていますが、数か国語での 3D 映画や、周囲を取り囲むスクリーンは、神聖なる島への仮想現実での訪問を可能にし、その役割とそこで発見出来るものを私たちが理解する手助けをしてくれます。日本語、英語と中国語での展示は、来館者に宗像大社を構成する 3 つの神社と、沖ノ島で行われた儀式的概要を分かり易く説明しています。

他には、宗像で発掘された品々や地域の古墳について展示し、宗像市の歴史や、日本とアジア大陸を結ぶ航路を紹介しています。沖ノ島で奉獻品として使用されていた勾玉（コンマの形をしたビーズ）などを来館者が手作りして还可以在る工作教室など、博物館では子ども向けの活動が定期的に行われています。エントランスホールの奥には軽食やドリンクを楽しめるカフェがあり、お土産や宗像大社の歴史に関する書籍もあります。館内の図書館には、宗像の歴史や文化、地域の風景などについての書籍が収蔵されており、自由に閲覧することができます。また、自転車のレンタルや無料のロッカーも利用できます。

【タイトル】 宗像三女神

【想定媒体】 WEB

<繁体字>

宗像三女神

宗像大社供奉著三位女神，她們都是傳說中太陽女神「天照大神」的女兒。

古代傳說

根據日本最早的史書《古事記》(712 年) 與《日本書紀》(720 年) 記載，天照大神曾與弟弟「素戔鳴尊」意見分歧，於是奪下素戔鳴尊的劍，將其一分為三，在聖泉中一一淨化後，放入口中嚼碎，從吹出的氣息中生出了三個女兒，她們就是宗像三女神。長女「田心姫神」的名字意為「霧」，供奉在遠方沖之島上的沖津宮；次女「湍津姫神」意為「旋流」，供奉在大島上的中津宮；幼女「市杵島姫神」意為「神宿之島」，被供奉於九州本島上的邊津宮。

三姐妹團聚

女神三姐妹被尊為渡海者與旅人的保護神。為了表達對女神的崇敬，三座神社的祭祀和祈禱活動從未間斷。古時日本與亞洲大陸間的航海旅途漫長且危險，宗像三女神在當時的日本對外交流活動中發揮了重要作用。後來，三女神信仰傳播至日本全國，各地主要海岸都先後建造供奉三女神的神社，像是廣島縣宮島上的嚴島神社與神奈川縣的江島神社。每年，在以色彩瑰麗著稱的「御阿禮祭」中，人們會駕駛漁船護送兩位小島上的女神回到九州本島，讓三姐妹得以團聚。

<日本語仮訳>

宗像三女神

宗像大社に祀られている三神は、太陽の女神とされる天照大神の娘たちとされています。

古代の伝説

日本最古の歴史書『古事記』（712 年）や『日本書紀』（720 年）によると、天照大神は彼女の弟・素戔鳴尊と意見の相違がありました。天照大神は素戔鳴尊の剣を取り、三つに分け、聖なる泉でその一つ一つを清め、それらを彼女の口で噛み砕いたのち、宗像三女神の三人の娘を吹き出しました。「霧」を意味する名前を持つ長女の田心姫神は遠方の島である沖ノ島の沖津宮に祀られています。「渦巻く潮」を意味する名前を持つ次女の湍津姫神は大島の中津宮に祀られています。「神宿る

島」を意味する名前を持つ三女で末娘の市杵島姫神は本土の辺津宮に祀られています。

三姉妹の再会

これらの三神は海路と海の旅人の守護者として知られており、三神に敬意を表して三社すべてで祭祀や祈祷が続けられています。日本とアジア大陸の間の航海が長く危険だった時代に、宗像三女神は日本が世界の他の国々と結びついていく上で重要な役割を果たしました。その信仰は日本全国に広まり、広島県宮島の厳島神社や神奈川県江島神社など他の重要な海辺の神社が三神を崇めるために建てられました。色鮮やかな「みあれ祭（御阿礼祭）」の一環として年に一度、宗像の二つの島に宿る神々は漁船の一団に護衛され、姉妹と本土で再会します。

【タイトル】 辺津宮の歩き方

【想定媒体】 WEB

<繁体字>

探訪邊津宮

通常，宗像大社是指位於釣川旁的邊津宮，它在宗像三神社中交通最為便捷。邊津宮供奉宗像三女神中的小妹「市杵島姬神」，本殿（正殿）與拜殿被指定為國家重要文化財產。

進入神社

穿過鳥居（神社入口的牌坊式建築），沿參道（參拜道路）前行抵達神門（正門），門上裝飾著代表皇室的金色菊花紋章，這在日本神社中十分常見。神門對面為拜殿和本殿。在進入神門之前，需要先在手水舍（淨水池）用涼水洗手、漱口，以淨化身心。

本殿

穿過神門後見到的第一棟建築是建於 1590 年的拜殿，後面便是本殿。原來的本殿已毀於火災，眼前的建築由宗像大社的大宮司（神社最高負責人）宗像氏貞（1545-1586）於 1578 年重建。如今的本殿為「檜皮葺」坡狀屋頂，紅色屋簷雕刻精美，其外觀與廣島縣宮島上的嚴島神社風格相似，後者同樣供奉著三女神。本殿與拜殿旁還有幾座末社（附屬神社），均為 1675 年從宗像地區其他地方搬遷而來。

古祭場

本殿右側道路通往高宮祭場，這裡是傳說中三女神下凡的地方。早在 1000 多年前，高宮祭場就已經是重要的祭祀場所，其歷史遠遠早於宗像大社。祭場西北方是玄界灘海面，從邊津宮出發，過海即可抵達沖之島。從祭場往下，有道路通往兩座末社，一座供奉沖津宮的「田心姬神」，另一座供奉中津宮的「湍津姬神」。

邊津宮的神寶館內收藏約 8 萬件沖之島祭場出土的國寶文物，在那裡可以更深入地了解宗像地區的古代祭祀歷史。

<日本語仮訳>

辺津宮の歩き方

釣川付近にある辺津宮は一般的に宗像大社とも呼ばれ、宗像の三つの神社の中で最もアクセスしやすい場所にあります。辺津宮は宗像三女神の末妹・市杵島姫神を祀っており、本殿と拝殿は重要文化財に指定されています。

神社に入る

鳥居をくぐって参道を進むと、神社で多く見られる皇室の金色の菊の御紋で飾られた神門（正門）に出ます。正門の向こうには拝殿と本殿があります。正門をくぐる前に多くの参拝者は手水舎に立ち寄り、お清めとして冷たい流水で手や口をゆすぎます。

本殿

正門をくぐって最初に見える建物の拝殿は、1590 年に建てられました。拝殿の後方にある本殿は、当時の宗像大社で大宮司だった宗像氏貞（1545-1586）によって火災後の 1578 年に再建されたものです。檜皮葺きの曲線状の屋根から複雑に彫刻された赤い庇まで、本殿の外観は広島県宮島の厳島神社（こちらも三女神を称えるために建てられました）の意匠に似ています。本殿と拝殿に隣接して末社がいくつかありますが、これらは 1675 年に宗像地方の他の場所から移築されたものです。

古代の祭場

本殿の右側には、三女神が天から地上に降りてきたと伝えられている高宮祭場に続く道があります。高宮祭場は大社そのものより以前からあり、千年以上も前から重要な祭祀の場でした。祭場の北西には玄界灘を挟んで辺津宮と沖ノ島を結ぶ海路が見えます。下って行くと、沖津宮の田心姫神と中津宮の湍津姫神を祀る二つの末社に通じる道が見えます。

宗像地方の古代の祭祀に関して更に詳細を知るには、辺津宮境内にある神宝館を訪問してください。神宝館は沖ノ島の祭場で発見された約 8 万点の国宝の品々を収蔵しています。

【タイトル】 高宮祭場

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**高宮祭場**

邊津宮本殿(正殿)右側有一道長長的階梯，可以通往位於一片開闊林地的高宮祭場。傳說中，這裡就是宗像三女神第一次下凡的地方。祭場是一處寬敞的正方形平地，地面上鋪著碎石，祭祀空間四周巨石圍繞，兩側樹冠重疊交錯形成天然穹頂。在6世紀佛教傳入前，如此樣式簡樸的戶外祭場相當常見。高宮祭場與沖之島、大島の敬神儀式已有1000多年歷史。每年10月秋季大祭的最後一天，遊客能在這裡觀賞到侍奉神明的未婚女性——巫女的「神樂」(祭祀神明的舞蹈)表演等儀式。

<日本語仮訳>**高宮祭場**

辺津宮本殿の右側の長い階段は、森林が開けた場所にある高宮祭場に繋がっています。宗像三女神が天から最初に降臨したとされる祭場です。小石で覆われた大きな正方形の平らな地面で、巨石が礼拝空間を作り出しています。両側から伸びる木の枝が重なり合い、自然なアーチ型の屋根を形成しています。6世紀の仏教伝来以前は、このような簡単な野外礼拝所が一般的でした。この場所や沖ノ島や大島では千年以上も神聖な儀式が行われてきました。10月の秋季大祭の最終日には、一般の人でも巫女による神楽などの儀式を見ることができます。

【タイトル】 第二宮と第三宮

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**第二宮和第三宮**

宗像大社面積廣闊，包括九州本島上的神社與兩座海上小島。由於沖之島上的沖津宮禁止普通人進入，因此無法完成對宗像大社三座神社的參拜；大島上的中津宮雖然向公眾開放，但只能乘渡船前往。為了便於參拜三位女神，神社在供奉「天照大神」幼女「市杵島姬神」的邊津宮後方，建有兩座末社（附屬神社），分別供奉島上神社中的兩位女神。

旅途守護神

第二宮供奉天照大神長女「田心姬神」，第三宮供奉次女「湍津姬神」。日本神話中太陽女神「天照大神」的三個女兒都是航海的守護者，後來又被尊為所有旅人的守護神，護佑人們在海、陸、空交通旅途平安。

與伊勢神宮的淵源

邊津宮裡的兩座末社均於 1978 年從供奉天照大神的伊勢神宮遷移至此。伊勢神宮有「式年遷宮」的傳統，即每 20 年重建一次神社殿宇，末社建築就是在那時被拆除並下賜至邊津宮的。小神社具備典型的伊勢神宮建築風格「唯一神明造」，其主要特點是陡峭的茅草或木板屋頂、交叉形的木製屋頂裝飾「頂華」，以及頂端用金屬包覆的「鯉木」，後者是與屋脊成直角的一根根平行鋪設的裝飾性短圓木。

<日本語仮訳>**第二宮と第三宮**

宗像大社は、2 つの島と九州本土の神社の境内を含む広大な地域に及びます。沖ノ島の沖津宮は一般には立ち入り禁止のため、3 つの神社すべてを訪れることはできません。大島の中津宮は一般公開されていますが、船以外に行く方法がありません。三女神全てへ参拝が容易に出来る様に、天照大神の三女・市杵島姫神が祀られている辺津宮の背後に、島に祀られた二柱のための二つの末社が建てられました。

旅の守護

第二宮は天照大神の長女・田心姫神を祀り、第三宮は次女・湍津姫神を祀っています。日本神話では、太陽の女神・天照大神のこの三人の娘たちは海路を守護することで知られており、後に全て

の旅路を守護することで崇敬されるようになりました。このようにして、姉妹神はあらゆる移動手段の交通安全を象徴するようになりました。

伊勢神宮との関わり

辺津宮のこれらの末社は、1978 年に伊勢神宮（天照大神を祀る）より移築されました。これらは伊勢神宮の 20 年に一度の新社殿の造営（式年遷宮）に併せて解体されました。これらの建物は伊勢神宮特有で古代の建築様式・唯一神明造の例で、また状の木製の頂華と金属で蓋をした鯉木（屋根の上に棟に直角になるように何本か平行して並べた装飾用の短い円柱状の木の部材）を用いて、急勾配で傾斜した茅葺きや板ぶきの屋根が特徴的です。

【タイトル】 神宝館

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**神寶館**

神寶館建於 1980 年，位於邊津宮內本殿（正殿）的左側，專為收藏沖之島的出土文物而建。

來自絲綢之路的供品

為祈求航行安全，古人向宗像大社三位女神敬獻了眾多稀奇珍寶，有的甚至來自遙遠的古波斯。沖之島的出土文物便於人們更深入地了解日本對外貿易的範圍、沖之島的重要性以及統治日本大部分地區的大和朝廷（300-710）在該島的祭祀活動。

相關研究自 1954 年開始，一直持續至 1971 年。出土文物多達 8 萬餘件，可見沖之島的重要地位。這些文物多為 4 世紀至 9 世紀末期數百年間的祭祀用具，所有文物均被指定為國寶。

出土文物中最為重要的有如下幾件：一枚朝鮮純金戒指（約 520 年）、一枚帶動物和神祇裝飾的中國曹魏漢式銅鏡「三角緣神獸鏡」、與東魏石窟龍頭雕刻神似的鍍金銅製龍頭一對、初唐時代的唐三彩長頸瓶碎片，以及來自波斯薩珊王朝（224-651）的玻璃製品。

神寶館一樓、二樓展出沖之島出土文物，三樓陳列宗像家與宗像大社の珍貴文書、古代雕刻、武士盔甲以及 1904 年至 1905 年日俄戰爭的文物等收藏品。

<日本語仮訳>**神宝館**

神宝館は辺津宮境内、本殿の左側にあります。沖ノ島で行われた考古学の発掘調査で出土した品々を収蔵するために 1980 年に建てられました。

シルクロードからの奉獻品

航海の安全を祈願した貴重な贈り物という形で、遠方は古代ペルシャからも宗像大社の神々に奉獻品が捧げられました。沖ノ島で発掘された品々は日本と外国との交易の広さや、この島が重要な意味を持っていたことや、日本の大部分を支配していた大和朝廷（300-710）による祭祀について理解を深めてくれます。

1954 年から 1971 年にかけて調査が行われ、8 万点以上の出土品が発掘されたことで沖ノ島の

重要性が明らかになりました。多くは 4 世紀から 9 世紀末までの数百年の間に、祭祀で用いられた。発見された全ての品は、国宝に指定されています。

純金で作られた朝鮮製の指輪（520 年頃）や、動物と神々で装飾された中国製の青銅の鏡「三角縁神獣鏡」（魏時代の漢式鏡）、「金銅製龍頭一對」（東魏時代の石窟に彫刻された龍頭と酷似）、「唐三彩長頸瓶片」（初唐時代の陶器）、ササン朝ペルシャ（224-651）からのガラスなど、重要な製品がいくつも含まれています。

沖ノ島で発見された宝物は 1 階と 2 階にあります。3 階には、宗像氏と宗像大社に納められた貴重な文書・古代の彫刻・武士の甲冑・1904 年から 1905 年の日露戦争の品々などの収集品が収蔵されています。

【タイトル】 お祭り

【想定媒体】 WEB

<繁体字>

節慶與祭典

宗像大社全年都會舉行各式祭典和儀式，新年是最熱鬧的時節之一。每年 12 月 31 日，從午夜開始就會有數萬人匯集於此，為新的一年祈福。宗像三女神自古就是守護海上航線與所有旅途交通的神明，因此前來參拜祈求免遭車禍的人尤其之多。

宗像大社春季大祭

春季大祭於每年 3 月 31 日至 4 月 2 日舉辦。期間，宗像大社向神明祈禱出入平安、繁榮興旺與五穀豐登，並由神社巫女（侍奉神明的未婚女性）身穿精美的「十二單衣」（12 層和服）跳舞祭神。

七夕祭

每年 8 月 7 日是大島中津宮的七夕祭，而日本其他地區的七夕節多為 7 月 7 日。據說中津宮是日本最初舉辦七夕祭的地方。日本的七夕與源自中國的七夕傳說不同，是關於天帝之女織姬和牛郎彥星之間的愛情故事，織女星與牽牛星是他們的象徵。兩人婚後怠忽職守，天帝一怒之下禁止夫妻相見，將二人分隔於銀河兩岸。幸而最終天帝心軟，允許他們每年七月初七相會，即為七夕。在節日前一週，大島便開始張燈結綵，中津宮內也裝飾起雕刻精美的竹燈籠。

宗像大社秋季大祭

每年 10 月最初 3 天舉行的秋季大祭，是敬拜宗像三女神的祭典，也是宗像大社一年中規模最大、最重要的活動。秋季大祭從 10 月 1 日邊津宮舉辦的「御阿禮祭」開始，屆時居住在小島上的兩位女神會在大約 150 艘漁船的護衛下，乘坐神轎被迎回九州本島拜訪小妹「市杵島姬神」。這天海面上漁船彩旗飄揚，場面非常壯觀。神官們會舉行迎神儀式，巫女們則身著華服跳起精緻優雅的舞蹈。10 月 2 日，邊津宮內舉行流鏑馬活動（為敬神的騎射表演）。10 月 3 日傍晚舉行「高宮神奈備祭」，在傳說中三位女神下凡的高宮祭場上的祭神舞中，秋季大祭落下帷幕。

西日本菊花大會

宗像大社於 11 月 1 日至 11 月 22 日舉辦菊花大會。期間，神社內將展出約 3000 盆菊花。這是西日本規模最大的菊花展，日落後仍可在燈下賞菊。菊花培植者以富有創意的形式

與繽紛的色彩展示他們的珍品。菊花大會正好與每年 11 月 15 日的「七五三」兒童節重合，所以神社裡會有許多 3 歲、7 歲的女孩與 5 歲男孩身著和服，在家人陪同下祈禱健康長壽。

<日本語仮訳>

お祭り

一年を通じて宗像大社ではいくつもの祭りや儀式が行われています。最も忙しい時期の一つは新年で、12 月 31 日の真夜中から新年の幸運を祈るために数万人が大社を訪れます。宗像三女神が歴史的にも海路を、ひいては全ての交通路を守護してきたため、自動車事故からの加護を祈願する多くの人々も参拝に訪れます。

宗像大社春季大祭

宗像大社での年中行事の春季大祭（3 月 31 日から 4 月 2 日まで）では、交通安全・繁栄・五穀豊穡を祈願し、精巧な十二単衣の着物を纏った巫女による舞が行われます。

七夕祭

大島の中津宮では 8 月 7 日（日本の他の地域では 7 月 7 日）に七夕祭が行われており、中津宮は日本で最初に七夕が行われた地とされています。日本の七夕は、中国発祥の七夕とは異なり、ベガとアルタイルとして表される、織工で天帝の娘の織姫（織女とも知られる）と牛飼いの彦星（牽牛とも知られる）の恋物語です。二人は結婚後に務めを怠ったため、織姫の父は二人が会うことを禁じ、天の川で引き離しました。天王はやがて気持ちを和らげ、年に一度、7 月 7 日に二人が会うことを許しました。祭りまでの 1 週間、島は飾られ、中津宮には精巧に彫刻された竹灯りが灯されます。

宗像大社秋季大祭

最大で最も重要な年中行事は、10 月の最初の 3 日間に行われる宗像大社の秋季大祭です。この祭りは宗像三女神を称えるものです。二つの島に宿る二神が妹神・市杵島姫神を訪ねるために辺津宮に運ばれる 10 月 1 日の「みあれ祭（御阿礼祭）」で始まります。多彩な旗を掲げた約 150 隻の漁船が神を乗せた神輿を護衛して本土に戻る勇壮な行事です。神官が歓迎の儀式を行い、巫女が美しい装束を纏って手の込んだ舞を披露します。10 月 2 日には境内で流鏝馬が行われます。10 月 3 日の夕方、高宮神奈備祭と神々が天から降臨してきたとされる古代の祭場・高宮祭場での神事舞で祭りは幕を閉じます。

西日本菊花大会

宗像大社では 11 月 1 日から 11 月 22 日まで菊花大会が行われ、境内に約 3,000 鉢の菊が飾られます。西日本最大級の規模を誇る菊花展で、日没後もライトアップされ楽しむことができます。栽培者は逸品の花を創造的で色鮮やかな姿で展示します。この祭りは、子どもたちを祝う 11 月 15 日の七五三と重なります。三歳と七歳の女の子と、五歳の男の子が着物を着て家族と一緒に大社を

訪れ、長寿と健康を祈ります。

【タイトル】 大島

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**大島**

從九州本島の神湊港坐渡船約 25 分鐘便能抵達大島，可當天來回。大島面積不大，主要名勝古跡間均有步道相連，適宜健行遊覽。大島地處九州本島與聖島沖之島中間，沖之島上供奉太陽女神「天照大神」的長女「田心姫神」。沖之島為宗教聖地，不對外開放，所以大島是遊客被允許最接近沖之島的島嶼。

中津宮

舉目眺望，沖之島、大島與邊津宮所在的宗像海岸在視覺上連貫成一條線。中津宮位於大島南側御嶽山的山腳，是一座建於 17 世紀的重要神社，神社內供奉著天照大神次女「湊津姫神」。中津宮和大島是連接九州本島上的宗像大社與遠方沖之島的樞紐。

沖津宮遙拜所

在大島另一側、面向沖之島的懸崖上，建有沖津宮遙拜所（拜殿）。此處是普通人被允許最接近沖之島沖津宮的地方，全年開放。每年春祭與秋祭等重要祭典時，拜殿大門會敞開，它猶如一個畫框，將隔海相望的沖之島定格在中。

馬蹄岩傳說

離沖津宮遙拜所不遠處，有一塊平坦的岩石，因其表面有馬蹄印痕故被稱為馬蹄岩。相傳，這是田心姫神騎馬從岩石上一躍飛跨至沖之島時留下的痕跡。馬蹄岩不遠處有風車觀景台與炮台遺址。炮台是第二次世界大戰（1939-1945）期間的瞭望哨，如今則是天氣晴朗時遠眺沖之島的絕佳位置。

<日本語仮訳>**大島**

大島は九州の神湊港から船で約 25 分のため、日帰りでも訪れることが出来ます。島はコンパクトで徒歩で散策しやすく、主要な名所を結ぶハイキングコースがあります。九州と聖なる島・沖ノ島の間位置しており、太陽の女神・天照大神の長女、田心姫神が祀られています。沖ノ島は宗教的な重要性から、一般には公開されていません。そのため、訪れることが出来る場所の中で、大島が沖ノ島に最も近い所です。

中津宮

沖ノ島と大島は、辺津宮がある海沿いの宗像と、線で結ばれています。重要な 17 世紀の神社の中津宮は大島の南側にあり、御嶽山の麓に位置しています。この神社は天照大神の三人の娘の次女・湍津姫神を祀っています。中津宮と大島は、九州の本宮と遠く離れた沖ノ島をつなぐ役割を果たしています。

沖津宮遥拝所

島の反対側には沖ノ島に面した断崖の上に沖津宮遥拝所（拝殿）があります。沖ノ島にある沖津宮に参拝者が最も近づく場所です。遥拝所は年間を通じて参拝者を受け入れており。春季大祭と秋季大祭を含めた年に数回、神社の扉が開かれ、窓からぴったり額縁に入った様な沖ノ島を見ることが出来ます。

馬蹄岩の伝説

沖津宮遥拝所からさほど遠く無い場所には馬蹄岩と呼ばれる平らに露出した岩があり、表面に馬蹄形に見える跡があることから名付けられました。伝説では田心姫神を乗せた馬が、岩から沖ノ島に跳んだ時に刻印されたと伝えられています。馬蹄岩から少し離れたところに、風車展望所と砲台跡があります。第二次世界大戦（1939-1945）中に監視に使用された砲台跡からは、晴れた日には沖ノ島の壮観な景色を見ることができます。

【タイトル】 大島交流館

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**大島交流館**

大島交流館與渡船碼頭幾步之遙，入場免費。這座現代化的公共設施，主要介紹沖之島與大島之間深厚的歷史淵源，並詳細說明中津宮與沖津宮遙拜所（拜殿）。大島周長僅 15 公里，人口約 700 人，島民大多從事漁業。對於日常仰賴海洋生活的人而言，宗像三女神是護佑安全與豐收的重要神明。

大島交流館內的三面螢幕放映著原創短片（帶英文字幕），影片以極具感染力的人物採訪形式，向遊客傳達當地人的心聲以及他們對沖之島的深情。館內展示當地工藝品，例如島民為每年 8 月「七夕祭」製作的精美竹燈。二樓則主要介紹源遠流長的當地宗教儀式，以及在大島上發現的部分祭祀器具。館內兒童區放映本地中小學生製作的島上生活紀實影片。

<日本語仮訳>**大島交流館**

大島交流館はフェリーターミナルから歩いてすぐのところにあり、入場無料です。この近代的な施設での展示は、沖ノ島と大島との間の深い歴史的なつながりを紹介しており、特に信仰の場としての中津宮と沖津宮遙拜所（拝殿）について詳しく説明しています。大島は周囲わずか 15km で人口約 700 人の小さな島で、島民の多くは漁業に従事しています。日々の暮らしが海次第の彼らにとって、宗像三女神は加護と豊漁のためにもとても大切な存在です。

大島交流館では、オリジナルの短編映画を三面スクリーンで上映しており、地元の人々の思いや、彼らの沖ノ島への気持ちを、心を動かす様なインタビュー（英語字幕付き）で伝えています。島民が毎年 8 月の七夕祭りのために作る装飾を施した竹灯りなど、地元の工芸品の例が展示されています。2 階には、代々受け継がれてきた地域の儀式を解説した展示や、ここ大島で発見された祭具の一部を展示しています。子どものコーナーでは、地元の小中学校の子どもたちが製作した島暮らしに関するビデオを上映しています。

【タイトル】 中津宮

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**中津宮**

中津宮是宗像大社三座主要神社之一，位於大島御嶽山山麓，可自九州本島西海岸乘坐渡船抵達。中津宮是大島生活的中心，能將漁港與島上主要港口一覽無餘。

御嶽山

中津宮供奉著宗像三女神之一「湍津姬神」。在御嶽山山頂上，有比中津宮歷史更悠久的古祭場。從神社後方的道路上山，步行約 20 分鐘即可抵達建在古祭場上的御嶽神社。

三女神的起源

中津宮內有一汪注入天川的泉水，名為「天之真名井」。沿著本殿(正殿)左側向下走，就能抵達這處泉眼。據日本最古老的史書《古事記》(712 年)與《日本書紀》(720 年)記載，太陽女神「天照大神」將弟弟的劍碎成三段，自「天之真名井」取天泉清洗，此泉眼因而得名。天照大神又將三塊劍咬碎後，從吹出的氣息中生出了三個女兒，她們被奉為宗像三女神。相傳飲下此處泉水，不但能長壽幸福，還能提升書法功力，因此當地學童紛紛往墨水中摻入泉水以期提高書寫水平。

御神水

沖之島上也有天然泉水，是古時水手順路停靠的取水之地。一般民眾無法至沖之島參拜，但能在中津宮求得裝有沖之島泉水的御守(護身符)，這是唯一允許被帶離沖之島的物品。此外，神社內也提供中津宮的泉水御守和沖津宮的御朱印(紀念印章)。

<日本語仮訳>**中津宮**

中津宮は、宗像大社の主要な 3 つの神社の 1 つで、九州の西海岸からフェリーですぐの大島の御嶽山の麓にあります。中津宮からは漁港や主要な港を一望でき、島の生活の中心にあります。

御嶽山

中津宮は宗像三女神の一柱・湍津姫神を祀っています。御嶽山の山頂には、中津宮よりも古くからある古代の祭場があります。神社の裏手の道は山中を登って行き、祭場に建てられた御嶽神社に続いています。御嶽山の山頂までは徒歩約 20 分かかります。

三女神の起源

中津宮の境内には、「天ノ真名井」という天の川に注ぐ小さな泉があります。本殿の左側から下る道を行くと、泉にたどり着くことができます。日本最古の歴史書『古事記』（712 年）や『日本書紀』（720 年）には、太陽の女神・天照大神が、弟の剣を三つに砕き、天ノ真名井と呼ばれる天の泉で清めたと記されており、そこからこの泉に名前がつけられました。それから天照大神はそれを噛み砕き、宗像三女神として祀られている三人の娘を吹き出しました。この水を飲むと長く幸せに生きられ、書道も上達すると言われています。地元の子どもたちは、筆づかいを向上させるために、墨に泉の水を混ぜます。

御神水

沖ノ島にも天然の湧き水もあり、古代の船乗りにとって便利な立ち寄り先となりました。一般の人は沖ノ島の神社を参拝することが許可されていない代わりに、中津宮では、沖ノ島から持ち出せる唯一の物質である沖ノ島の水を入れたお守りや、中津宮の湧き水を入れたお守りや、沖津宮の御朱印を授けています。

【タイトル】 沖津宮遙拝所

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**沖津宮遙拝所**

為了祭拜遠方的沖之島，人們於 18 世紀上半葉建造了沖津宮遙拝所。由於大多數人無法登上沖之島，所以這個小小的拜殿便成了替代處所。顧名思義，遙拝所是遠距離參拜的處所，在日本並不罕見。當神職人員無法親自到訪特定神社時，遙拝所便是就近的另一選擇。

天氣晴朗時，從遙拝所能望見沖之島。每年的春季大祭與秋季大祭等重要祭典時，遙拝所會開放數次。敞開大門後，遠處的沖之島就如同一幅優美的圖畫被定格在方形窗框中。江戸時代（1603-1867）神官常常在無法前往沖之島時，便在遙拝所完成沖津宮的宗教儀式。如今，當地漁民到沖之島周邊捕魚時，他們的妻子便會在此祈禱海上平安。有一條小道通往遙拝所上方的觀景台，這裡是一覽玄界灘和曲折海岸線全景的好去處。

<日本語仮訳>**沖津宮遙拝所**

沖津宮遙拝所は、18 世紀前半に沖ノ島を遠方から遙拝するために建てられました。沖ノ島はほとんどの人が訪れることができないため、この小さな拝殿はその代わりとして機能しています。遠くから拝礼するための場所は「遙拝所」と呼ばれ、日本では珍しくなく、神職が特定の神社に直接足を運ぶことができない場合に重宝する場所を提供しています。

晴天の日には、ここから沖ノ島が見えます。春と秋の祭りの時期を含めて年に数回、沖津宮遙拝所が開かれ、沖ノ島の景色がその四角い窓で縁取られます。江戸時代（1603-1867）、神官が沖ノ島に辿り着けるとは限らなかったため、ここで沖津宮の神事が盛んに行われました。今日では、地元の漁師の妻たちが、夫が沖ノ島周辺で漁をするときに、海での安全をここで祈ります。遙拝所の上には、玄界灘と険しい海岸線を一望できる展望台へと続く小道があります。

【タイトル】 御嶽山と御嶽神社

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**御嶽山觀景台與御嶽神社**

御嶽神社位於御嶽山山頂，神社和山頂都屬於中津宮，與本殿（正殿）有步道相連。御嶽神社的歷史可追溯至 16 世紀，此處不僅能將島上全景盡收眼底，也能遠眺沖之島。早前的宗教儀式都在山頂的空曠地帶舉行，與邊津宮旁的高宮祭場和沖之島祭場的祭祀時期重合。古祭場位於神社後方的樹林中，位置隱蔽，一般不對外開放。

御嶽山山頂新建了觀景台，在此向北能眺望包括沖之島、壹岐、對馬等島嶼在內的玄界灘，地面上有指示沖之島方位的標示，往南可見福岡市與北九州市。

<日本語仮訳>**御嶽山展望台と御嶽神社**

御嶽神社は御嶽山の山頂にあります。神社と山頂は中津宮境内の一部で、本殿とは遊歩道で結ばれています。社殿は 16 世紀まで遡るもので、島内と沖ノ島を一望することができます。昔は、山頂の開けた場所で儀式が行われていました。これは辺津宮近くの高宮祭場や沖ノ島の祭場で儀式が行われていた時期と重なります。この古代の祭場は一般には立ち入り禁止で、神社の裏の木々に隠れています。

御嶽山の山頂に最近建設された展望台からは、北方の沖ノ島や壹岐・対馬など玄界灘を一望でき、沖ノ島の方角を示す目印が地面にあります。南の方向には福岡市と北九州市を眺められます。

【タイトル】 宗像大社沖津宮（入門）

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**宗像大社沖津宮（簡介）**

沖之島位於日本九州本島與朝鮮半島之間的海峽上，在日本歷史上地位特殊。作為宗教聖地以及日本與亞洲大陸往來的樞紐，沖之島不僅揭示了日本本土宗教「神道教」的發展歷程，更在古代日本與外界的互動交流中起到了至關重要的作用。沖之島全島被指定為國家史跡與國家天然紀念物。

古代遺物

20 世紀，考古學家們發現這個地形崎嶇的小島是一座寶庫，島上發現的文物可追溯至 1500 年前。由於嚴格限制普通民眾登島，並禁止從島上帶離包括石頭、樹枝等任何物品，島上文物均保存得極為完整。再加上它完整記錄了千餘年來宗教儀式的發展過程，2017 年沖之島及相關遺產群被列入世界文化遺產名錄。

島嶼保護

非宗像大社神職人員不得登上沖之島，此禁令至今仍被嚴格遵守。島上的神職人員過著與世隔絕的生活，每 10 日輪班一次。他們在島上主要負責神社的日常維護，以及依循古禮為供奉在此的宗像三女神之一「田心姬神」舉行祭拜儀式。

信仰與貿易

宗像家對九州宗像地區的統治從 7 世紀開始一直延續到 1586 年，那一年宗像大社最後一位大宮司（神社最高負責人）宗像氏貞（1545-1586）去世，且無嗣。據傳，沖之島最晚在 4 世紀時就已經被該家族奉為信仰聖地，當時的大和朝廷（300-710）已向居於沖之島原始森林裡、奇石中與懸崖上的神明們祈求航海安全，並獻上珍貴供品。該習俗在持續了 500 年後，逐漸演變為如今更具儀式性的信仰模式——在神社祭祀神明。

<日本語仮訳>**宗像大社沖津宮（入門）**

日本の九州と朝鮮半島との間の海峽に位置する沖ノ島は、日本の歴史において独特な位置を占めています。沖ノ島は聖地として、そしてアジア大陸との行き来の中継地として、日本固有の宗教・神道の発展や、古代における日本と外の世界との交流について多くのことを教えてください。沖ノ島は全

島が国の史跡であり、国の天然記念物にも指定されています。

古代の遺物

二十世紀の考古学者らは、この小さく起伏の多い島が、1,500 年前まで遡ることが出来る品々の宝庫であることを発見しました。沖ノ島とその出土品は非常によく保存されていましたが、その理由の 1 つは、一般の人々が島内に立ち入ることを厳しく制限し、一切の物、小石や小枝でさえ持ち出すことを禁止する厳しい禁忌にあります。この優れた保存状態と何世紀にもわたる儀式の発展により、沖ノ島と関連遺産群は 2017 年に世界遺産に登録されました。

島の保全

厳格なルールは現在でも守られており、沖ノ島への入島を許可されているのは、宗像大社の神職だけです。交代制で 10 日間にわたり隔離状態で生活します。境内の整備やここに祀られている神、宗像三女神の一柱・田心姫神のために古くからの祭祀を行います。

信仰と貿易

7 世紀から宗像大社の最後の大宮司・宗像氏貞（1545-1586）が男系の跡継ぎを残さずに没した 1586 年まで、九州の宗像地方は宗像氏に治められており、遅くとも 4 世紀には沖ノ島をこの家族によって信仰の地として確立していたと考えられています。大和朝廷（300-710）は、原生林や劇的な岩の露出や崖など、沖ノ島の自然環境に宿る神々に航海の加護を求め、貴重な奉獻品を捧げていました。この慣習は 500 年間続きました。この頃には今日見られるより形式的な信仰様式に発展し、社殿に神々を祀りました。

【タイトル】 日本とアジア間の貿易交流

【想定媒体】 WEB

<繁体字>

日本與亞洲的貿易交流

4 世紀晚期，宗像家將沖之島定為祭祀聖地，此時正值日本與亞洲大陸交流日益繁榮時期。在這段早期交流中，深具文化影響力的佛教、中國漢字體系，以及重要貿易商品——絲綢與馬匹都被帶入日本列島。大量源自中國的文化與物品透過朝鮮進入日本，沖之島的許多出土文物都反映出了這 500 年間日本與中國及朝鮮半島的貿易往來。

絲綢之路

在大和朝廷（300-710）統治日本大部分地區期間，宗像家被任命負責沖之島的祭祀事宜。日本最早的兩本史書《古事記》（712 年）與《日本書紀》（720 年）對此有詳細記載。島上出土的供品足以證明沖之島在祈求平安的遠洋航海人心目中的崇高地位。島上發掘出約 8 萬件文物，有來自中國與朝鮮的物品，有的甚至來自遙遠的波斯，應該都是經由絲綢之路傳入日本的。

亞洲貿易

西元 7 世紀至 8 世紀間，日本與亞洲大陸的貿易交流，時常被朝鮮王國與中國唐朝（618-907）之間的戰爭阻斷。儘管 8 世紀後日本仍有遣唐使被派往中國，但到了 9 世紀，由於中國五代（907-960）朝局不穩定，無法維持官方貿易交流，所以 500 年來向沖之島敬奉供品的習俗也隨之消失。

<日本語仮訳>

日本とアジア間の貿易交流

宗像氏が沖ノ島を信仰の地として確立した 4 世紀後半は、日本とアジア大陸の間の交流が盛んになった時期と重なります。仏教や中国の文字体系、絹や馬は、この初期の貿易の結果として日本列島にもたらされた重要な文化的影響と物資の一つでした。中国からの多くの文化と製品が、朝鮮の仲介者を通じて日本に持ち込まれました。中国や朝鮮半島との 500 年間の貿易は、沖ノ島で発見された多くの品々に反映されています。

シルクロード

日本の大部分を支配していた大和朝廷（300-710）は、宗像氏に沖ノ島での祭祀を代行させ

ました。この関係は、8 世紀初頭に編纂された日本最古の 2 つの歴史書・『古事記』（712 年）と『日本書紀』（720 年）に詳述されています。沖ノ島で発見された奉獻品の品々は、外海での加護を求める旅人の間における島の重要性を示しています。発見された約 8 万点の品々の中には、中国や朝鮮からのものもあり、遠くはペルシャからのものもあります。これらはシルクロード経由で日本にもたらされたと考えられています。

アジアとの貿易

7 世紀から 8 世紀にかけて、朝鮮の王国と唐王朝（618-907）との戦争が日本と大陸との貿易をしばしば断絶させました。8 世紀以降も遣唐使は派遣されましたが、9 世紀までに中国の五代（907-960）の不安定さが原因で、正式な貿易は途絶え、500 年に及ぶ沖ノ島への奉獻の慣習は行われなくなりました。

【タイトル】 世界遺産への登録

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**列入世界文化遺産**

2017 年,「神宿る島」宗像・沖之島及相關遺産群被列入聯合國教科文組織(UNESCO) 世界文化遺產名錄, 成為日本第 21 處世界遺產。遺產地以沖之島為核心, 與日本其他世界遺產相比, 其特徵鮮明: 沖之島上出土了超過 8 萬件的文物, 數量驚人; 無論文物或是發掘地點都保存完好。因此, 沖之島具備「突出的普遍性價值(OUV)」。而沖之島嚴格的禁令, 也意味著島上的物品可能千百年來都未曾被人觸碰過。

祭祀儀式的發展

考古人員對沖之島各處出土文物的調查結果表明, 沖之島上最早的祭祀形式是將供品擺放在可被日月照耀的岩石上。到 5 世紀前後, 供品被放置在靠近島中央的一些大型圓石上, 人們在這些地方發現了鏡子與鐵塊。接下來的兩個世紀, 供品位置轉移到了懸崖深處岩石下的遮蔭之處。8 世紀前後, 供品被放在了岩石避陽處。到了 9 世紀前後, 又轉移到現在沖津宮殿宇附近的空地上。這些發現讓人們了解到神道教如何從自然崇拜發源, 及其之後的發展過程。許多供品還揭示了早在 4 世紀時日本與亞洲鄰國之間就已經有了頻繁交流, 同時宗像家在日本早期統治政權下就已經享有威望。

繼往開來的遺產保護工作

盡管祭祀形式發生了變化, 且三女神信仰在 9 世紀後跨過大島與九州海峽日益普及, 但沖之島的重要地位並無減損。憑藉島上出土的供品以及來自遠處九州本島和大島的崇拜, 沖之島被聯合國教科文組織認定為傳統聖島信仰的特例。正是當地民眾的虔誠與奉獻, 才讓傳統在千餘年中得以延續, 最終令沖之島及其周邊地區的重要發現與世界共享。

<日本語仮訳>**世界遺産への登録**

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群は、2017 年に日本の 21 件目のユネスコ世界遺産に登録されました。沖ノ島を中心とした地域の特徴は、国内の他の世界遺産と一線を画しています。沖ノ島で発見された 8 万点を超える膨大な数の品々に加え、発見された場所と品々の両方が素晴らしく、この島を OUV（顕著な普遍的価値）がある場所にしました。島を管理する厳格な禁忌は、その

品々が何百年も手つかずのままである可能性が高いことを意味しました。

儀式の発展

沖ノ島のさまざまな場所で発見された品々を調査した結果、沖ノ島で最初に知られる儀式では、太陽と月に開かれた岩の上に奉獻品が置かれたと研究者が結論付けました。5 世紀頃には奉獻品は島の中心付近の大きな丸石に置かれました。これらの場所では鏡や鉄塊が発見されています。その後 2 世紀の間に、深い張り出しの下にある大きな岩の陰の地点に奉獻品は移動しました。8 世紀頃には岩の部分的な日陰に置かれるようになり、9 世紀頃には現在の沖津宮の社殿近くの開けた場所へと移行しました。これらの発見は、自然崇拝の一形態としての神道の起源から、神道の発展への貴重な洞察を示しています。多くの奉獻品は、早くも 4 世紀からの日本とアジアの近隣諸国との盛んな交流と、宗像氏が日本の初期の支配者の下で享受していた名声も明らかにしています。

未来に向けた過去の保存

儀式の形態が変化し、9 世紀以降に大島や九州の海峡を越えての信仰が一般化しても、島の重要性は衰えませんでした。沖ノ島は、島内で献上された奉獻品や、九州や大島から遠く離れた距離での崇拝を通じて、聖なる島を信仰する伝統の特別な例としてユネスコにより宣言されました。最終的には、この地域の伝統を千年紀以上にわたり守り続けてきた地元の人々の献身のおかげで、沖ノ島とその周辺地域の重要な発見が世界に共有されることができたのです。

【タイトル】 沖ノ島の禁忌

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**沖之島禁忌**

在當地居民口中，沖之島擁有「神宿之島」、「神秘島」、「不可說者」等不同稱呼。毫無疑問，登島禁令有助於保護島嶼的神秘性及其遺址的完整性。島上出土的數萬件供品，也證明這裡自古以來便是信仰重地。

一般民衆的登島禁令延續至今。與日本其他重要聖地相同，無論是字面意義或象徵意義，維護沖之島的純淨都是首要考量。為了保護島上的自然環境，除了禁止帶離任何島上的物品，神職人員登島前也必須施行「禊祓」(禊，音同「戲」)，裸身下海清洗身體，還必須發誓對島上任何行為活動完全保密。

<日本語仮訳>**沖ノ島の禁忌**

地元の住民は沖ノ島を「神宿る島」、「神秘の島」、「不言様」など様々な名称で呼んでいます。沖ノ島で守られてきた禁忌が島の神秘性と遺跡の完全な保全に役立ったことは間違いありません。島で発見された数万点もの奉獻品から立証されているように、古来には沖ノ島が信仰の重要な場所でした。

沖ノ島への一般の立ち入りは現在でも禁止されています。日本の他の重要な聖地と同様に、沖ノ島の清らかさを維持することは、文字通りにも象徴的にも優先事項です。例えば、島から物を持ち出すことを禁止することで島の自然環境を維持することに加えて、入島を許可された人は、「禊」と呼ばれる儀式で裸で海に浸かり、身を清めることが義務付けられています。島内での行動についても、徹底した秘密保持を誓わなければなりません。

【タイトル】 沖ノ島の神道の歴史

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**沖之島神道教の歴史**

沖之島與相關神社都屬於「古神道教」，或叫「原始神道教」。神道教為日本本土信仰，核心是對自然中的「神」的崇拜。早期日本人將巨木、巨石等自然物視為神靈的棲居地，奉其為聖物，使用「注連繩」（扭轉的稻草繩）明確標記。歲月更替，人們在這些聖物旁建起了神社，供參拜者祈禱、供奉。

聖島

整座山或像沖之島這樣一座美麗的島嶼被視為聖地的事例並不少見。沖之島共出土了約 8 萬件文物，研究表明，西元 4 世紀至 9 世紀之間就已經有參拜者登上沖之島禱告並獻上貴重物品，用以祈求神明護佑海上安全，感謝神明令旅途一帆風順。隨著時間的推移，女神「田心姫神」也逐漸成為了島上祭祀的對象。

淨化儀式

神道教相當重視身體、思想與精神的純淨，水和鹽是最為常見的淨化用品。參拜者進入神社前需依照儀式洗手、漱口。少數被允許登上沖之島的人大多為宗像大社的神職人員，他們登島前必須在海裡淨化全身。普通人雖無緣前往沖之島，但能在九州本島邊津宮的第二宮以及大島的沖津宮遙拜所（拜殿）祭拜沖之島上的神明。

<日本語仮訳>**沖ノ島の神道の歴史**

沖ノ島とその関連する神社は、「古神道」（原始神道ともいう）に属しています。神道は日本固有のもので、自然に宿ると信じられている神々の崇拜を中心に展開しました。初期の日本人は、巨木や巨石などの自然物を神々の宿る場所として認識していました。これらのものを神聖なものとして示すために注連縄が用いられました。後の時代には、近辺に神社が建てられることもあり、参拜者がそこで祈ったり、お供えをしたりしました。

聖なる島

山全体や、沖ノ島のような極めて美しい島全体までもが神聖視されることは珍しくありませんでした。4 世紀から 9 世紀の間の沖ノ島への訪問者が、海を渡る際の加護と旅の成功への感謝として、ここで

神々に祈りや貴重な品々を捧げたことを研究者たちが突き止めました。沖ノ島では約 8 万点の奉獻品が発見されています。やがて、島での儀式は女神・田心姫神を含むように進化しました。

清めの儀式

神道では身体・思考・魂の清らかさが重要であり、水や塩がお清めのために広く使用されています。神社の参拝者は儀式に従って手や口を洗い自らを清めます。沖ノ島への入島を許可された数少ない訪問者はそのほとんどが宗像大社の神職ですが、彼らは島を訪れる前に、海で全身を清めなければなりません。沖ノ島は一握りの個人を除いて立ち入り禁止ですが、九州本島にある辺津宮の第二宮と大島の沖津宮遥拝所（拝殿）から、誰でも沖ノ島の神を崇めることができます。

【タイトル】 島で発見された祭具

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**沖之島上出土の祭祀用具**

在 500 多年的歲月裡，沖之島一直是在危險的遠洋航行中尋求神明護佑的人們的目的。研究表明，沖之島並不處於日本與朝鮮半島之間的既定航線上，因此登島並非易事。1950 年代至 1970 年代間，考古學家在沖之島進行了一系列的發掘調查，出土的 8 萬餘件文物全部被指定為國寶，並轉移至九州本島宗像大社の神寶館內收藏。文物大多是敬獻給島上神明的供品，許多物品都採用了當時先進工藝加工的異域材質。透過這些出土文物，可一窺亞洲大陸不同地域的發展狀況，例如：哪幾個國家結成貿易同盟，何處的金屬加工工藝與玻璃製造技術最為成熟。

西元 6 世紀至 9 世紀，正值絲綢之路最繁盛時期，日本位處這條貿易通道的最遠端，沖之島上甚至發現了來自遙遠的波斯薩珊王朝（224-651）的物品。另有約 60 枚源於中國的銅鏡，據研究人員推測，可能當時的日本大和朝廷與中國存在外交關係。大和朝廷於西元 3 世紀至 8 世紀間統治著日本大部分地區，與沖之島的淵源深厚。無論工藝品或是日用品，每件文物都隱藏著一個趣味橫生的故事。

<日本語仮訳>**島で発見された祭具**

沖ノ島は約 500 年以上の間、危険な航海で神の加護を求める人々の行く先でした。調査によると、沖ノ島は必ずしも日本と朝鮮半島の間で確立された航路上にあるわけではなく、それゆえ訪れるには特別な努力が必要でした。1950 年代から 1970 年代までに行われた一連の発掘調査により、8 万点以上の品々が発掘されましたが、いずれも国宝に指定されており、九州・宗像大社の神宝館に移されました。これらの多くは、地元の神に捧げられた奉獻品で、当時としては先進的と思われる技術を駆使したエキゾチックな素材で作られています。これらの品々はどの国が貿易同盟を結んでいたか、どこで金属加工やガラス製造技術が栄えていたかなど、アジア大陸各地の発展を伝えています。

日本は 6 世紀から 9 世紀に最盛期を迎えたシルクロードの末端だったため、遠くはペルシャのササン朝（224-651）の物もここで発見されました。中国起源の銅鏡約 60 枚は、3 世紀から 8 世紀にかけて日本の大部分を支配し、沖ノ島とのつながりが深かった大和朝廷と中国との外交関係を示すものと研究者は推測しています。装飾用のものであれ実用的なものであれ、それぞれに興味深いストーリーがあります。

【タイトル】 銅鏡

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**銅鏡**

鏡子は日本本土宗教信仰「神道教」の重要象徴、神道教信仰のは自然環境中の神霊。在日本神話中、眾神使用一枚鏡子將太陽女神「天照大神」從祂躲藏的洞穴中引了出來，讓世界重現光明。如今進入任何一座神社，都可能見到祭壇上擺放著銅鏡。

人們在沖之島最古老的祭場發現了大量 4 世紀時的銅鏡。鏡子被認為起源於中國，後來在日本也以類似的風格仿製。沖之島文物中最著名、保存最完好的一枚銅鏡為「三角緣神獸鏡」，其紋樣刻畫的是中國漢朝（西元前 206 年-西元 220 年）廣為流傳的神話人物——東王父與西王母，旁邊還有一圈神獸環繞。

根據日本最早的史書記載的創世神話，天照大神派遣孫子「瓊瓊杵尊」下凡，並賜予祂鏡、勾玉及劍。瓊瓊杵尊成為日本皇室祖神，鏡、勾玉、劍被視為三大神器，作為皇室神性的象徴而備受尊崇。沖之島上除了鏡子以外，也出土了勾玉與劍，由此推測，當地也曾供奉過相當於三大神器的物品。

<日本語仮訳>**銅鏡**

鏡は、自然環境に宿る神々を崇拝する日本固有の宗教・神道の重要な象徴です。日本神話では、太陽の女神・天照大神が隠れていた洞穴から彼女を外に出すために鏡が使われ、世界に光を取り戻しました。今日、神社に行くと、祭壇の上に銅鏡が置かれているのを見ることがでしょう。

4 世紀の銅鏡が沖ノ島の最古の祭場で多数発見されました。鏡は中国起源のものと考えられており、後に日本で同様の様式で作られたものもあります。最も有名で保存状態のよい例は三角縁神獣鏡で、聖なる獣に囲まれた漢（紀元前 206-紀元 220）時代に人気のあった中国神話の二神の東王父と西王母がデザインされています。

日本最古の歴史書に記録されている創造神話によると、天照大神は孫息子・瓊瓊杵尊を地上に遣わした際、鏡・勾玉・剣を彼に授けました。彼は皇室の祖神となり、鏡・勾玉・剣は三種の神器とされ、皇室の神性の象徴として崇められています。沖ノ島では鏡とともに勾玉・剣が揃って出土し、三種の神器にあたる品が奉獻されていたことがわかります。

【タイトル】 馬具

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**馬具**

馬於 5 世紀從朝鮮傳入日本，並很快成為大和朝廷（300-710）不可或缺的存在。這些精巧的鍍金銅馬具與配件都來自朝鮮，因為在朝鮮王族古墓也發現了同樣的陪葬品。有研究表明，最早在日本飼養軍馬的是朝鮮人，他們於 4 世紀至 7 世紀為躲避朝鮮半島百濟、新羅、高句麗三國之間的戰亂而渡海來到日本。

馬匹似乎從未因祭祀儀式而被帶上沖之島，這些馬具之所以被當作供品，應該是緣於馬擁有的鮮明象徵意義。在神道教中，馬被認為是神的交通工具。時至今日，仍有一些神社餵養白馬，但更多地方已經換成馬的雕像。

<日本語仮訳>**馬具**

馬は 5 世紀に朝鮮から日本にもたらされ、大和朝廷（300-710）にとって時を経ずに必要不可欠なものとなりました。これらの精巧な金銅製の馬具や装飾品は朝鮮から持ち込まれたもので、朝鮮の王族の古墳からも同様のものが出土しています。また、日本で最初に軍用の馬を飼育したのは、4～7 世紀の百濟・新羅・高句麗の 3 国間での戦時中に安全の保証を得て渡来した朝鮮民族であると考えられています。

儀式のために沖ノ島に馬を運び込むことは一度もなかったようで、これらの品々はおそらくこの動物の強力な象徴性に対する証です。実際、神道では馬は神様の乗り物と考えられています。今日でも奉納された本物の白馬が常にいる神社もありますが、多くの場合は彫像です。

【タイトル】 鉄艇

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**鐵塊**

與朝鮮半島以及亞洲大陸の初期往來，對日本掌握先進技術、促進當地發展至關重要。絲綢、茶葉等許多貴重物資，以及漢字、佛教等思想文化，不斷經由海路輸入日本。考古人員在沖之島 5 世紀的祭場上發現的這些平整的鐵塊，證明了鐵在古代日本的重要性。

大和朝廷（300-710）曾從朝鮮半島進口鐵，日本決定出兵朝鮮支援盟國，其目的也正是想保護這一重要資源。來自以鑄鐵聞名的朝鮮伽倻地區的難民，被大和朝廷僱用來製造馬具和盔甲。一些研究學者認為，此舉讓大和在日本的霸權鬥爭中贏得了優勢。

<日本語仮訳>**鉄艇**

日本と朝鮮半島やアジア大陸の初期の関係は、最新の技術発展に遅れをとらないためにも極めて重要でした。絹や茶など多くの貴重な物資と漢字や仏教などの思想が海路で運ばれてきました。沖ノ島の 5 世紀の祭場で発見されたこれらの平らな鉄艇は、古代の日本における鉄の重要性を証明しています。

大和朝廷（300-710）は朝鮮半島から鉄を輸入しており、同盟国を支援するために朝鮮へ日本の兵を派兵する決定を下した背景には、この重要な資源を保護する目的があったと考えられています。鉄の鑄造で知られる朝鮮の伽倻地方からの難民は、大和朝廷に雇われて馬具や甲冑を製造していました。一部の研究者によれば、これが彼らが日本における覇権争いに有利に働いたといえます。

【タイトル】 金製指輪

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**金戒指**

這枚純金戒指製作於 1500 年前，閃亮耀眼且有著驚人的現代感。這枚戒指來自朝鮮半島，新羅古都——慶州的王族墳墓中也有同樣的出土物品。戒指上用纖細金屬絲焊出的花朵與圓形圖案，充分展現了當時的精湛工藝。日本與亞洲大陸的交流，對其自身發展至關重要。事實上，日本從金屬加工到建築的各個方面的創新，都與朝鮮半島和中國的貿易、外交有著密不可分的關係。

<日本語仮訳>**金製指輪**

純金製のこの指輪は驚くほど現代的な雰囲気があり、作られてから 1,500 年経った今も美しく輝いています。この指輪は、同様のものが新羅の古都・慶州の王族墳墓からも発見されており、朝鮮半島に由来しています。金の薄く細長い金属片が溶接された指輪上の花と円形の模様は、当時としては高水準の技術を実証しています。自国の発展のためには、日本とアジア大陸との結びつきが不可欠であり、朝鮮半島や中国との交易・外交から伝播した金属加工から建築まで、あらゆる分野で革新がありました。

【タイトル】 金銅製龍頭

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**鍍金銅龍頭**

這對裝飾性的鍍金銅龍頭出自 6 世紀中期，出土於沖之島祭場。每個龍頭長約 20 公分，兩者雖看似相同，表情樣式其實略有差異。這對龍頭可能曾經被安裝在旗杆或遮陽傘頂部。這對龍頭應該來自中國，在中國敦煌莫高窟隋代（581-587）與唐代（618-907）壁畫中，能看到杆尖上有類似的龍頭裝飾，龍口掛一面旗幟或寶蓋，大致可推測出其用途。此外，中國山西省天龍山石窟群的第二窟東魏（6 世紀中葉）石窟的佛龕上，也有類似的龍頭雕刻。

<日本語仮訳>**金銅製龍頭**

6 世紀半ばまで遡ることが出来るこの一對の装飾的な金銅の龍頭は、沖ノ島の祭場で発掘されました。それぞれの長さは約 20cm で、非常によく似ていますが、表現にわずかな違いがあります。龍頭は旗竿や日傘の先端に取り付けられたフィニアルと思われます。この対は中国から輸入されたものと考えられています。中国・敦煌莫高窟の隋代（581-587）、唐代（618-907）の壁画には、竿先に本品と同様の龍頭がつけられ、口元から幡や天蓋を吊り下げる様子が描かれており、用途を知ることができます。中国山西省の天龍山石窟群のうち、中国東魏時代（6 世紀中葉）の石窟である第 2 窟の仏龕に彫刻された龍頭に酷似しています。

【タイトル】 イランからのカットガラス

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**來自伊朗的磨花玻璃**

這塊玻璃應該是一個玻璃碗的碎片，在沖之島供品文物中極為罕見。其製作年代大約在西元 6 世紀，產地是與沖之島相隔 7000 多公里的伊朗，體現了波斯薩珊王朝（224-651）精湛的工藝水準。

古代波斯文化影響深遠，透過絲綢之路，波斯與古代中國的貿易、外交往來頻繁。研究認為，玻璃碗本身就是經由這條貿易通道傳入日本的，類似物件在中國高官的墓葬中也曾出土過。這塊玻璃片薄且半透明，上面獨特的圓形浮雕應該佈滿整個碗面，只有採用「吹模法」工藝才能達到如此精緻的效果。

<日本語仮訳>**イランからのカットガラス**

グラス碗の一部と考えられているこの破片は、沖ノ島で奉獻品として残された品々の中でも珍しい発見です。これは 6 世紀に遡るもので、沖ノ島から少なくとも 7,000km 離れたササン朝（現在のイラン）の優れた職人技の一例です。

古代ペルシャは文化的な影響力が大きく、この碗が日本に伝わったと思われるシルクロード経由でペルシャと古代中国との間に交易や外交が行われた形跡が多く残されています。中国の高官の墳墓からも似たような事例が見つかっています。グラス片は薄く半透明で、表面全体に施されていたと思われる独特な円形の浮き彫りの一部が含まれています。この洗練された効果は、「型吹き法」として知られるガラスを型に膨らませる方法によってのみ生み出されるものです。

【タイトル】 金銅製高機

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**鍔金銅高脚織布機**

從展示的織物樣本就可看出，這台微型鍔金銅織機能精準織造出所有細節。西元 3 世紀，紡織技術由朝鮮半島傳入日本。在之後的幾個世紀裡，紡織品生產，尤其是使用剛從中國引進的絲綢進行的織物生產，一直深受宮廷的看重與支持。供奉太陽女神「天照大神」的主要神社——伊勢神宮也有同樣的微型紡織機，被視為「神寶」。由此可見，「律令國家」（8 世紀改革後建立的中央集權政府）舉行的祭祀儀式晚於沖之島。

<日本語仮訳>**金銅製高機**

この金銅製のミニチュア織機は展示用に部分的に織られた織物からも分かる様に、細部まで正確に作られています。織物技術は 3 世紀に朝鮮半島から日本にもたらされました。その後数世紀の間、特に、中国から伝来してまもない絹を用いた繊維生産は、宮廷の厚い庇護を受けました。同様のミニチュア織機は、太陽の女神・天照大神を祀る主要な神社である伊勢神宮のいわゆる神宝の一つです。このことは、沖ノ島での儀式が「律令国家」として知られる 8 世紀の改革された中央集権制の下で、後に行われた儀式の先例であることを示しています。

【タイトル】 金銅製雛形五弦琴

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**鍔金銅雛型五弦琴**

五弦琴是日本本土絃樂器「和琴」的一種，這張微型五弦琴與神寶館展示的鍔金銅高腳織布機一樣，同在沖之島祭場出土。其最為顯著的特徵是，琴頭呈「鷄尾」狀（「鷄」通「鷗」，音同「吃」）。儘管是微型琴，撥弦亦可發出悅耳聲響。祭祀皇室祖先的主要神社——伊勢神宮也藏有同樣的和琴，被視為「神寶」。由此可見，「律令國家」（8世紀改革後建立的中央集權政府）舉行的祭祀儀式晚於沖之島。

<日本語仮訳>**金銅製雛形五弦琴**

この弦楽器は、倭琴として知られる日本固有の琴のミニチュア版です。この琴の最大の特徴は、琴の頭の形が、広がった「鷄の尾」であることです。これは、同様に神宝館で展示されている金銅製高機と同じ沖ノ島の祭場で発見されました。このミニチュア琴の弦は実際に音を出すことが出来ます。同様の琴は、皇室の祖先を祀る主要な神社である伊勢神宮の神宝の一つでもあります。このことから、沖ノ島での儀式が「律令国家」として知られる 8 世紀の改革された中央集権制の下で、後に行われた儀式を先行していたことを示唆しています。

【タイトル】 唐三彩と奈良三彩

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**唐三彩與奈良三彩**

這兩個陶壺看起來相似，但一個產自日本，另一個來自中國。由於使用鉛釉，壺面色彩鮮明艷麗。日本產的陶壺被稱為「奈良三彩」，製造於 8 世紀，是現存最早的模仿三色燒（唐三彩）製作的陶器。另一個陶壺出自 7 世紀的中國唐代（618-907），與中國各地墓葬中出土的陶器相似。奈良三彩壺在中國製陶工藝中融入了日本銅綠釉，是中日技術的結晶。

<日本語仮訳>**唐三彩と奈良三彩**

これら 2 つの陶器の壺は似ているように見えるかもしれませんが、一つは日本起源で、もう一つは中国起源のものです。大胆な色彩は鉛釉を用いて生み出されました。日本の壺は、8 世紀に製作された三色焼き（中国語で三彩として知られる）を真似たものの現存する最古の例です。もう一つは 7 世紀の唐代（618-907）起源のもので、中国各地の古墳から発見されたものと似ています。奈良三彩と呼ばれるこの国産の壺は、中国の技術に日本の銅緑釉を組み合わせたもので、中国の技術がどのように取り入れられたかを示しています。

【タイトル】 古墳

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**古墳**

史前時代，歐亞大陸普遍都有在土丘或岩丘下建造大型墳墓的習俗。日本為天皇或達官顯貴建造墳墓的傳統始於 3 世紀中葉，從中國經由朝鮮半島傳入日本。據推測，此類古墳在整個日本列島共約有 16 萬座。在古墳時代，地方豪族也能與天皇同樣為一族之長建造墳墓，並在墓中埋葬與沖之島出土文物類似的貴重物品。宗像家與大和朝廷（300-710）關係緊密，控制著海上航線管轄權，在為該家族建造新原・奴山古墳群時，造墓及在墓中放入陪葬品已成慣例。

想了解更多古墳資訊，請下載 App Store 或 Google Play 專用 AR 應用程式「Okinoshima Finder」。

<日本語仮訳>**古墳**

土や岩の盛り土の下にある大きな墓・古墳の造営は、有史以前のヨーロッパやアジアでは一般的でしたが、日本では 3 世紀中頃から始まりました。天皇や要人の墳墓を造る伝統は古代中国から朝鮮半島を経由して日本に伝わりました。約 16 万の墳墓が列島全域で造営されたと考えられています。には、天皇のみならず地方豪族の長のためにも墳墓が造営されました。彼らは、沖ノ島で発見されたものと同様の貴重な品々とともに埋葬されました。地域の海路を司り、大和朝廷（300-710）との結びつきが強かった宗像氏のために新原・奴山古墳群が造営される頃には既にこの風習は定着していました。

これらの古墳についてさらに詳しく知るには、App Store と Google Play で入手できる専用 AR（拡張現実）アプリ「みちびき沖ノ島」をダウンロードしてください。

【タイトル】 新原・奴山古墳群

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**新原・奴山古墳群**

九州新原・奴山古墳群為著名的宗像家墓地，是沖之島世界文化遺產的一部分。建造於 5 世紀和 6 世紀的 41 座古墳，集中分佈在福岡市北部海岸附近，四周一片田園風光。從古墳能遠眺位處福岡縣北部和佐賀縣之間的玄界灘，大島和沖之島也遙遙在望。

這些土墳形制可分為圓墳和前方後圓墳，其周圍大多有壕溝環繞。新原・奴山古墳群共有 5 座前方後圓的古墳，其內部出土了與沖之島類似的金屬工具和供品。古墳群內部不對外開放，但能在青草覆蓋的土丘周圍散步。古墳群距離「奴山口」公車站差不多 800 公尺，悠閒漫步即可抵達。

<日本語仮訳>**新原・奴山古墳群**

九州の新原・奴山古墳群は、有名な宗像氏の一族の墓であり、沖ノ島の世界遺産の一部となっています。5 世紀から 6 世紀にかけて造営された 41 基の古墳は、福岡市北部の田畑に囲まれた海岸に近いのどかな田園地帯に集まっています。古墳からは、福岡県北部と佐賀県の間広がる玄界灘や大島と沖ノ島の方角を望むことができます。

これらの土の墓は、円墳や前方後円墳として造られ、多くの場合は濠に囲まれています。新原・奴山古墳群の中では 5 基の前方後円墳を見つけることができます。これらの古墳の内部空間からは、沖ノ島で発見されたものとよく似た金属製の道具や奉獻品などがみつかっています。古墳の内部は一般公開されていませんが、草で覆われた墳丘の周囲を歩くことは可能です。それらは、奴山口バス停からのんびりと散策するのに十分なほど近く（800m の範囲）にあります。

【タイトル】 新原・奴山古墳群と海

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**新原・奴山古墳群與海**

站在新原・奴山古墳群所在的台地上，可以將構成宗像大社の 3 大神聖區域盡收眼底。而連綿起伏的人造山丘本身，也是一道頗有魅力的風景。這裡是顯赫一時的宗像家的古墳群，面朝大島（中津宮）與沖之島（沖津宮）所在的玄界灘，從邊津宮步行至此約 1 小時。

古墳群正對連接沖之島與朝鮮半島的海路，彰顯了宗像家對該地區長期而重要的影響力。古墳群原本沿著海岸線而建，現今已與海岸相距數公里，這是千百年來海水後退的結果，從前的海岸線早已模糊難辨。「昭和學園前」公車站的馬路對面設有古墳觀景台，能俯瞰整個古墳群，還提供多種語言版本的介紹資訊。

<日本語仮訳>**新原・奴山古墳群と海**

新原・奴山古墳群は、現在の宗像大社を構成する 3 つの神聖な場所を見下ろす台地に築かれました。起伏のある人工の丘の連なりが魅力的な光景です。有名な宗像氏の一族のこれらの古墳は辺津宮から歩いて約一時間のところにあり、大島（中津宮）と沖ノ島（沖津宮）が位置する玄界灘に面しています。

沖ノ島と朝鮮半島間の海路に面した古墳の位置は、宗像氏がこの地域に及ぼしてきた長年の影響力の視覚的な隠喩となっています。古墳群は現在数キロメートル内陸にありますが、かつては海の入江に接していました。何世紀にもわたり海は後退しており、元の海岸線の痕跡はほとんど見ることはできません。展望台では、数か国語による情報が得られるほか、古墳群全体が見渡せます。展望台は昭和学園前バス停から道を渡ったところにあります。

【タイトル】 宗像氏

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**宗像家**

新原・奴山古墳群は専ら宗像家重要成員建造の墓地。日本最初の史書《古事記》(712年)、《日本書紀》(720年) 及び《新撰姓氏録》(815年) 名鑑中、皆能找到對宗像家の紀錄、且有證據表明、宗像家在這些文獻成書前就已經是名門望族。自大和時代(300-710) 初期、主持祭祀便成為鞏固國家和統治的重要一環、對位置偏遠的領地、朝廷將此重要職責委託當地某一家族代為執行。宗像家不僅是大和朝廷在沖之島祭祀事宜的代理執行人、也是重要貿易路線的守護者。

宗像家統治の九州西北部、包括橫跨玄界灘、連接日本與朝鮮間最短的航線、以及九州本島與本州之間的海路、而本州就是大和朝廷的中心地帶。西元7世紀時、宗像家成員已經同時擁有地區行政長官與大宮司(神社最高負責人)這兩項世襲頭銜。據史料記載、天皇後宮也有宗像家的女子、與皇室的聯姻使其家族地位更為堅固。在沖之島の祭儀終止後、宗像家成員繼續擔任著沖之宮、中津宮和邊津宮神社の大宮司。1586年、隨著最後一名男性成員宗像氏貞(1545-1586) 去世、這個曾經顯赫的家族宣告終結、但家族聲名在當地流傳至今。

<日本語仮訳>**宗像氏**

新原・奴山古墳群は宗像氏の重鎮らのために造られました。宗像氏について記述された最古の文書としては、『古事記』(712年) と『日本書紀』(720年) そして815年に完成した系譜『新撰姓氏録』がありますが、それよりもずっと早い時期に著名になったことを示す証拠があります。大和朝廷は遠隔地では特定の一族に重要な宗教的役割を割り当てるなど、大和時代(300-710) 初期から祭祀の遂行が、国家形成や統治の重要な要素であったと考えられています。宗像氏は朝廷に代わって沖ノ島の祭祀を取り仕切りましたが、重要な貿易路の守護者としての重大な役割も果たしたと考えられています。

九州北西部の宗像氏が統治した九州北西部の地域には、日本と朝鮮の最短経路(玄界灘を横断) と、九州と大和朝廷の中核地域が位置する本州の海路が含まれていました。7世紀に、宗像氏が地域の行政官と大宮司の世襲の役職を兼務するようになり、記録によれば宗像氏の娘たちと天皇の間に姻戚関係も成立し、その地位を強固なものとなりました。沖ノ島での祭祀の終了後も、宗像氏

は沖津宮・中津宮・辺津宮の大宮司としてあり続けました。1586 年に一族で最後の男性である宗像氏貞（1545-1586）が死去し、家系が突然途絶えましたが、現在もこの地ではその名が残っています。

【タイトル】 宗像大社のお守り

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**宗像大社の御守**

日本各地の神社都有自己的御守（護身符）和御札（神符），宗像大社為參拜者準備的御守獨樹一格，包括裝有唯一能帶離沖之島的物品——聖泉水的小玻璃球。在歷史變遷中，宗像三女神從最初的海上守護者衍變為所有交通的守護神，所以宗像大社最受歡迎的是交通安全御守。當然，祈求健康、受孕、安產、學業也各有對應御守。除此之外，還有在紙條或木製符板上寫有禱文的御札，可放在家中祈願家宅平安。

作為到訪留念，神社工作人員會為遊客在朱印帳（紀念印章收集冊）上題寫書法，並蓋上設計精美的印章。朱印帳可以自己攜帶，也可在神社購買。由於沖之島不對公眾開放，收集御朱印的愛好者可以在大島的中津宮獲取沖之島沖津宮的御朱印。

<日本語仮訳>**宗像大社のお守り**

お守りやお札は、日本各地の神社で手に入れることができます。宗像大社では、島から唯一持ち出すことのできる物質である沖ノ島の聖なる湧き水が入った小さなガラス玉など、独自の選り抜きの品々が揃っています。三神は元々は海路の守護神でしたが、時が経つにつれて全ての交通路の守護神に広がっていったため、大社で最も人気のあるお守りの交通安全守りを購入することができます。他には、健康・安全な妊娠と出産、学業などを祈願するものもあります。また、お札も入手可能です。これらは、自宅の神の加護を表しており、自宅内に飾ることができる紙片や木板に記されています。

神社で朱印帳を購入または持参することもできます。神社の方が参拝を記念して神社の書と飾り印を授けて下さいます。ご朱印の収集者には、一般公開されていない沖ノ島にある沖津宮のご朱印を大島の中津宮でもらうことができます。

【タイトル】 辺津宮の歴史

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**邊津宮の歴史**

高宮祭場は九州本土信仰の發源地，位於邊津宮後山上的森林裡。這是一處露天祭場，從那裡能直接眺望懸浮在玄界灘上的沖之島。據說，高宮祭場是宗像三女神的下凡之地。幾百年間，信仰場所從自然物體和林間空地移至建築內。12 世紀時，人們在高宮祭場下方增建了拜殿。

依靠對外貿易發家致富的宗像家是這個地區的統治者，同時也擔任當地的神職人員。該家族建造了邊津宮本殿（正殿）及旁邊兩座末社（附屬神社），分別供奉三女神。原有建築歷經多次火災和戰亂已蕩然無存，現在的本殿是宗像家最後一位大宮司（神社最高負責人）於 1578 年重建。原本的第二宮、第三宮建築同樣毀於火災。1978 年，人們將兩座從三重縣伊勢神宮遷來的新神殿安置在本殿後方，即今天的第二宮和第三宮。

<日本語仮訳>**辺津宮の歴史**

九州本土における信仰の元々の場所は、辺津宮の上の森の中にある野外祭場の高宮祭場であり、そこからは玄界灘に浮かぶ沖ノ島を見渡せます。そこは宗像三女神が天から地上に降臨したとされる場所です。自然物や森の空地から建物へ、信仰の場所が何世紀にもわたって進化し、12 世紀には高宮祭場の下に拝殿が追加されました。

外国貿易で財を成した宗像氏がこの地域を支配し、地域の神職も務めました。彼らは本殿を建て、二つの末社をその隣に建てて三神それぞれを祀りました。度重なる火災と戦乱で当初の建物は破壊されましたが、現在の本殿は最後の宗像氏の大宮司によって 1578 年に再建されました。当初の第二宮と第三宮の社殿は焼失しましたが、1978 年に三重県の伊勢神宮から遷座した新しい社殿が、現在本殿の背後に建っています。

【タイトル】 大島の歩き方

【想定媒体】 WEB

<繁体字>

漫遊大島

大島是離沖之島最近的一個島嶼，島上座落著供奉「湍津姬神」的中津宮和沖津宮遙拜所，後者專供參拜者隔海拜祭沖之島以及供奉在那裡的「田心姬神」。

漁村生活

悠閒漫步島內，遊客能了解宗像地區的信仰歷史，並有機會體驗小漁村生活。在渡船碼頭附近的宗像漁協大島直銷所さよしま (Sayoshima)，能購買當天捕撈的海鮮；在大島交流館內，可以了解到當地的節慶習俗，以及島上居民與沖之島之間的深厚歷史淵源。透過造訪這些設施，可以感受到當地居民對大海深深的敬意。

觀光語音導覽服務「大島聲之旅」

自助旅行的遊客可以在大島渡船碼頭租借音訊設備，藉由 GPS 導航邊走邊收聽島上各處的趣聞。渡船碼頭附近就有許多景點，如果想去其他地方，可以搭乘環島公車。

令人心動的小島

夢之小夜島是一座懸浮於海灣上的小島，上面有紅色鳥居（神社入口的牌坊式建築），退潮時能步行前往。

其他景點

島嶼北側的炮台遺跡建於第二次世界大戰(1939-1945)期間，是大島近代歷史的見證。距離大島燈塔不遠處的三浦洞又稱「約翰洞」，是島上最有特色的景點之一。1614 年基督教被禁後，從長崎逃來此地的神父約翰就藏身於此。橫跨大島的散步路線是「九州偶來(Olle)」※健行線的一部分，幾乎涵蓋了島上大部分的景點。3 月下旬至 4 月中旬的油菜花季更是不容錯過，健行路線旁大約 3000 平方公尺的花田裡，有約 25 萬株油菜花絢爛綻放，金色花海與風車、大海同框，令攝影愛好者流連忘返。路線步道標示清晰，無需特別裝備，適合中級健行者。

※九州偶來 (Olle)：九州 21 條健行線（截至 2021 年 2 月）所組成的健行網路，是濟州偶來的姊妹版本。

<日本語仮訳>

大島の歩き方

大島は湍津姫神を祀る神社・中津宮のある島です。大島は、沖ノ島に最も近い島として、沖ノ島（とそこに祀られている神・田心姫神）を遥拝するための神社・沖津宮遥拝所もあります。

漁村での生活

訪問者は島内を散策することで、宗像地方の信仰の歴史を知ることができ、小さな漁村の生活を体験する機会も得られます。フェリーターミナル近くにある、その日の水揚げを提供している宗像漁協大島直売所さよしまから、地元の祭りや島民と沖ノ島との深い歴史的つながりを展示している大島交流館まで、訪問者は地元の人々が海に対して抱いている深い敬意をすぐに感じることができます。

観光音声ガイドサービス「大島聴き旅」

島内のガイドなしの個人旅行には、訪問者は大島フェリーターミナルでオーディオ端末を借りることができ、GPS を使用してあちこち巡るのに合わせて興味深い情報を伝えてくれます。フェリーターミナルの近くにはいくつかの見どころがあり、またその他の場所を訪れるためには定期バスが島内を一周するように走っています。

感動的な小島

夢の小夜島は赤い鳥居で縁取られた湾に浮かぶ小さな島で、干潮時には歩いて行けます。

さらに遠くへ

第二次世界大戦中に島の北側に築かれた砲台の跡には、より最近の歴史が映し出されています。最も異色の場所の一つは、「ヨハンの洞窟」としても知られる三浦洞窟です。大島灯台からさほど遠くなく、1614年にキリスト教が禁止された後、長崎から逃れてきたカトリック司祭・ヨハン神父の隠れ家でした。九州オルレ[※]・トレッキングコースの一部である散策コースは島の内陸部を横断し、見どころのほとんどを網羅しています。特記すべきことは、3月下旬～4月中旬の菜の花シーズンです。コース脇では、約3,000平方メートルの畑に約25万本の菜の花が咲きます。菜の花、風車、海を一度に写真におさめることができるため、多くの写真愛好家がここに訪れます。散策コースは分かりやすく目印が付けられており、特別な装備のない中級者のトレッキングに適しています。

※九州オルレ：九州の21のウォーキングコース（2021年2月時点）の総称で、済州島の海岸をくまなく歩くウォーキングコース「済州オルレ」の姉妹版です。

【タイトル】 沖ノ島の祭祀

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**沖之島の祭祀儀式**

日本本土宗教「神道教」起源於繩文時代（西元前 10,000 年-西元前 300 年）的萬物有靈信仰。繩文時代距今已有一萬多年，為日本的新石器時代。當時人類完全受大自然支配，因而對自然產生了敬畏之心。人們將自然景觀與自然物奉為神明，舉行儀式和節慶活動祈求豐收和旅途平安。

奉獻品（供品）

一些手工製作物品被認為具有精神力量，例如鏡、勾玉和劍。這三件物品組合起來，就是象徵日本皇室神性的「三大神器」。

祭場的變遷

早在神道教出現以前，沖之島就已經在露天舉行祭祀儀式，包括鏡子、貴重的勾玉、貨幣、陶器等在內，儀式上使用的供品數以萬計。目前已知的沖之島儀式中，最早的祭場是被日月照耀的岩石。5 世紀前後，舉行儀式的祭場被移至沖之島中心附近，考古學家在這裡發現了鏡子與鐵塊。隨後兩個世紀中，祭場又轉移到懸崖深處岩石之下的陰蔽之處。大約 7 世紀時，供品被放置於岩石的一些背陽處。8 至 9 世紀，現在沖津宮社殿（神社建築）後方的空地成為了新的露天祭場。

<日本語仮訳>**沖ノ島の祭祀**

日本の新石器時代である 1 万年以上前の縄文時代（紀元前 10,000 年-紀元前 300 年）の靈的慣行から日本固有の宗教・神道は徐々に発展しました。自然の力のなすがままのため、人々は自然に対して深い敬意を持ち始めるようになりました。五穀豊穰や旅の安全を祈願して儀式や祭りが執り行われ、自然の土地や物は神として祀られました。

奉獻品

鏡・勾玉・剣など人間が作ったものにも靈力があるとされました。これらの三つの品は、日本の皇室の正統性を象徴する「三種の神器」を構成しています。

祭場の変遷

鏡や貴重な勾玉から貨幣や陶器に至るまで何万点もの品々が、現在知られている神道より前に遡る野外儀式において沖ノ島で使用されていました。いま知られる沖ノ島での最初の儀式は、太陽と月に開かれた岩の上で行われました。5 世紀頃、これらの儀式は沖ノ島の中心付近で行われました。これらの場所では鏡や鉄艇が発見されています。その後 2 世紀の間、儀式は深い張り出しの下にある大きな岩の陰の場所に移りました。7 世紀頃までには、岩の部分的な陰に奉獻品が置かれるようになり、8-9 世紀には現在の沖津宮の社殿近くにある開けた場所での野外の祭事へと変遷しました。

【タイトル】 沖ノ島の歴史

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**沖之島の歴史**

日本早期歴史沒有詳細的文字記錄。在最早的史書《古事記》(712 年) 與《日本書紀》(720 年) 中，記載了宗像家曾在沖之島、大島の御嶽山以及邊津宮の高宮祭場為宗像三女神主持祭祀儀式。此類儀式 4 世紀時發源於沖之島，9 世紀時大部分已轉移到九州本島。

沖之島祭祀儀式萌芽時，正值佛教剛從印度傳至中國，還未進入日本。當這些儀式走向末期時，日本最古老、最受尊崇的神道教神社——三重縣的伊勢神宮與島根縣の出雲大社相繼建成，參拜活動也從露天祭場轉移到專為供奉神明而建的永久性建築內。

<日本語仮訳>**沖ノ島の歴史**

日本の初期の歴史に関する詳細な記録はありません。最古の歴史書『古事記』（712 年）と『日本書紀』（720 年）には、宗像氏が沖ノ島や大島の御嶽山や辺津宮境内の高宮西祭場で宗像三女神のために祭祀を行っていたことが記されています。これらの祭祀は、沖ノ島での祭祀が始まった 4 世紀から大半の祭祀が本土に移された 9 世紀にかけて行われました。

これらの祭祀が最初に行われていた当時、仏教がインドから中国に伝播しましたが、日本にはまだ伝わっていませんでした。これらの祭祀の終焉期には、日本最古の最も崇敬された神社である三重県の伊勢神宮と島根県の出雲大社が建立され、信仰は主に野外空間から祭祀のために建てられたより恒久的な建造物へと移行しました。

【タイトル】 沖ノ島の奉獻品と神宝

【想定媒体】 WEB

<繁体字>

沖之島の供品與珍寶

沖之島上各處祭祀場所共出土了 8 萬餘件文物，數量相當驚人。現在，大部分文物在宗像大社の神寶館展出。

古代珍寶

沖之島文物中，有一種用貴重石材雕刻的逗號形珠子「勾玉」。根據日本最早史書中記載的創世神話，太陽女神「天照大神」派孫子「瓊瓊杵尊」下凡統治日本，並賜予祂三大神器——鏡、勾玉和劍。瓊瓊杵尊成為日本皇室的始祖，三大神器則作為天皇神性的象徵備受尊崇。皇室的三大神器從不公開示眾，但應該與沖之島發現的物品相差無幾。

祭祀的變遷

沖之島發現的最古老、最精緻的文物中，有不少來自中國與朝鮮半島的珍寶，說明日本當時已與亞洲其他地區建立了早期貿易關係。西元 8 世紀與 9 世紀的文物大多為日本自產，相對簡單。和早期用來供奉神明的舶來品相比，這一時期以滑石雕刻的人像、馬像和船模居多，可見當時祭祀的性質已發生變化。

<日本語仮訳>

沖ノ島の奉獻品と神宝

沖ノ島で発見された品の数は驚くほど多く、島内の至る所の祭場から 8 万点以上の品が発掘されました。その多くは現在、宗像大社の神宝館で展示されています。

古代の宝物

沖ノ島で発見された品の中には、貴重な石から彫られたコマの形状をしたビーズ（勾玉）があります。日本最古の歴史書に記録されている創造神話によると、太陽の女神・天照大神は彼女の孫息子・瓊瓊杵尊に日本を治めさせるために遣わした際、三種の神器である鏡、剣と勾玉を授けました。彼は日本の皇室の始祖となり、三種の神器（鏡・勾玉・剣）は天皇の神性の象徴として崇められています。皇室の三種の神器は決して一般公開されませんが、沖ノ島で発見されたものと似ていると考えられます。

祭祀の変遷

沖ノ島で発見された最も初期の最も精巧な品々の一部は、中国や朝鮮半島から持ち込まれたもので、アジアの他の地域との初期の貿易関係を示しています。8 世紀から 9 世紀の品々の多くはよりシンプルで日本国内で制作されました。もっと初期の頃に神々に捧げられていた輸入品とは対照的に、人間や舟や馬の形に彫られた滑石の品が多いことから、祭祀の性質が変化したことがうかがえます。

【タイトル】 沖ノ島の原生林

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**沖之島の原始森林**

沖之島禁止一般民衆登島，普通人難以親身感受沖津宮與古祭場的自然環境。整座島嶼被視為神的居所而受到崇拜，因此島上的任何物品禁止帶離，包括石頭、樹枝與樹葉。唯一能登島的是舉行祭祀儀式的神職人員，偶爾還有一些前來協助維護神殿的漁夫。因此，島上森林幾乎未受人類干擾，是本地鳥類與昆蟲的寶貴家園。為保護這片原始森林，沖之島全島被指定為國家天然紀念物。如果想欣賞島上的原始自然景觀，請造訪海之道宗像館，觀賞在沖之島拍攝的照片與視頻。

<日本語仮訳>**沖ノ島の原生林**

一般の人々が沖ノ島を訪れることは許可されていないため、沖津宮や古代の祭場の自然環境を感じ取ることは困難です。島全体が神の住処として神聖なものと考えられ崇拝されているため、地元の禁忌は島内から石や小枝や葉まで全てのものを持ち出すことを禁じています。訪問者は、ここで崇拝を行う神職と時折社殿の保全に協力する漁師のみです。これらの理由により、島を覆う森林も実質的に手つかずで、その土地の野鳥や昆虫にとって貴重な保護区となっています。原始林を考慮して、島全体が国の天然記念物に指定されています。島の手つかずの自然を鑑賞するには海の道むなかた館を訪れ、沖ノ島で撮影された写真やビデオをご覧ください。

【タイトル】 沖ノ島の地形

【想定媒体】 WEB

<繁体字>**沖之島の地形**

沖之島距離九州本島海岸約 60 公里，是一座地形崎嶇、亂礁環繞的小島。即使在九州本島和大島的最佳觀景點遠眺，也很難清楚看到這座聖島。方圓 97 萬平方公尺的整座島嶼都是山地，上面覆蓋著茂密森林，最高點海拔 243 公尺。船隻唯一可以安全靠岸的地方是建在島南側的一個小碼頭，水泥消波塊與天然海灘可以抵禦洶湧的海浪。島上亂石嶙峋卻有淡水泉眼，曾經是來回於日本與朝鮮半島之間的航海員的重要停靠點。

<日本語仮訳>**沖ノ島の地形**

沖ノ島は九州本土の海岸から約 60 キロ離れており、危険な岩礁に囲まれた小さいですが起伏の多い島です。本土や大島の見晴らしの良い場所からでさえ聖なる島をはっきりと見ることは困難です。島全体は 97 ヘクタールの山地で、密林に覆われています。島の最高点は海拔 243 メートルです。船で安全に上陸できる唯一の場所は、コンクリートの防壁と天然の浜辺で荒海から守られた南側に設けられた港だけです。島は岩場が多いですが、淡水の湧き水があり、日本と朝鮮半島を行き来する海路の旅人にとって貴重な寄港地となりました。

【タイトル】 滑石製形代

【想定媒体】 WEB

<繁体字>

滑石雕像供品

沖之島發現の諸多供品中，有一些是用滑石雕成的小物件。滑石又稱皂石，柔軟耐用，數千年來一直是理想的雕刻材料。這些雕像出土於島上的空地以及臨時搭建的石祭壇周圍，其歷史可追溯到 8 世紀至 9 世紀間。這些人像、馬像、船模等宗像信仰物件，是沖之島祭祀儀式最後一段歷史時期的主要供品。

<日本語仮訳>

滑石製形代

沖ノ島で発見された多くの奉獻品の中には、滑石を削って作られた小さな品もありました。その柔らかさと耐久性により、滑石（別名・石鹼石としても知られる）は何千年もの間、理想的な彫刻の材料でした。8 世紀から 9 世紀まで遡ることが出来るこれらの品は、人や馬や舟を象っています。島内の開けた場所や仮設の石の祭壇の周辺などで発見されており、宗像の信仰ならではのものです。これらは沖ノ島で行われた儀式の終盤の時期における主要な奉獻品でした。

017-043

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

【タイトル】 古墳から見つかる品々

【想定媒体】 WEB

<繁体字>

古墳出土文物

新原・奴山古墳群 41 座古墳の出土文物中，包含矛、斧、箭鏃等武器，以及可能從朝鮮半島帶入日本的鍛冶工具等。當時，朝鮮冶鐵技術比日本更為發達。從這些陪葬品可以看出墳主的顯赫身份，也進一步證明他們曾與隔海相望的亞洲大陸有過交流往來。

<日本語仮訳>

古墳から見つかる品々

41 基の新原・奴山古墳群からの出土品には、槍や鉾や矢じりなどの武器と日本より早く鉄製錬技術が発達した朝鮮半島からもたらされたとみられる鍛冶道具などが含まれています。ここで見つかった品々は、埋葬された人物の威信を示し、彼らが海を越えてアジア大陸と交流していたというさらなる証拠を提供しています。